

第5回 小中一貫教育校検証部会 会議要録

開催日時	平成 26 年 6 月 17 日 (火) 午後 2 時～午後 4 時	
会 場	大泉桜学園 会議室	
出席者	委 員	酒井朗 花園主計 下村恭子 近藤みちよ 金子靖子 玉井弘子 西村貴 富岡弘美 小川善昭 星野哲雄 木下川肇 田頭裕 池田和彦 堀田直樹 羽生慶一郎
	協力委員	伊藤秀樹
	事務局	統括指導主事、新しい学校づくり担当課
傍聴者	なし	
案 件	<ol style="list-style-type: none"> 1 練馬区小中一貫教育推進会議の設置・運営 2 練馬区における小中一貫教育の推進状況 3 小中一貫教育校大泉桜学園の概要 4 練馬区小中一貫教育校大泉桜学園検証計画 5 平成 26 年度における小中一貫教育校検証部会予定 6 大泉桜学園検証項目および資料に関する検討資料 (ヒアリングの対象と内容) 	

1 開 会

事務局

練馬区小中一貫教育推進会議小中一貫教育校検証部会を開会いたします。昨年度、第4回まで開催しておりますので、本日は第5回になります。

2 部会長あいさつ

事務局

(委嘱状の交付について説明)

(委員、協力委員、事務局の自己紹介)

3 案件

(1) 練馬区小中一貫教育推進会議の設置・運営

部会長

まず案件の練馬区小中一貫教育推進会議の設置・運営について、事務局から説明をお願いします。

事務局

(資料2 資料3 説明)

部会長

全体としては教育推進会議がありまして、その下に2つの部会が設置されています。こちらの検証部会は、実際に小中一貫の教育活動をどうやって評価したらいいのか、どうやってその良さを見ていくことができるのかといった方法について考える部会になります。

アンケートをとったり、いろいろな方にお話をお伺いしたりして、学校の先生方から見てどういうところが課題なのか、あるいはどういうところがこの小中一貫だからできることなのかということ等を考えていきたいと思っています。

今の説明で質問はございますか。

(特になし)

では、先に進めさせていただきます。

(2) 練馬区における小中一貫教育の推進状況

部会長

次に案件の練馬区における小中一貫教育の推進状況について、事務局から説明をお願いします。

事務局

(説明)

部会長

非常にたくさんの資料で、目を通していただくには多いかなと思いますが、ちょっと見えますと、平成13年からですから、随分前から練馬区では取組まれています。小中一貫なんていうことを、おそらくまだほとんどの自治体が考えていなかった時代から、練馬区では先を見通して考えてこられたということだと思います。後々、検証のところが一番大事になるのは、資料5の3ページの「小中一貫校設置の効果」というところです。当初、こういう効果が期待できるだろうということで記載されたものですが、本当に期待されたような効果が上がっているのかどうかということを確認する作業がこの部会での一番大きな課題になります。

①は「9年間を見通した教育課程を編成・実施することにより、発達段階に応じた計画的・継続的な学習指導および生活指導の充実」です。小学校には小学校の教え方、中学校には中学校の教え方があり、小学校、中学校と分かれていますとどうしてもなかなかつながらないのですが、先生方が一貫した授業を工夫されることで、継続的にその学年、学年に応じた学習指導や生活面での指導を継続していくことができるようになるというのが①です。

②は、よく言われることですが、中学校に入ったら部活があって先輩・後輩で上下関係が厳しかったり、定期テストがあったりして、小学校と中学校で学校の雰囲気や先生のご指導のあり方が随分違います。一貫した円滑な移行というふうに書いてありますが、子どもの学年に応じて緩やかに指導していくことで、子どもが不安定にならずに学校生活を送れるようにする、その結果として不登校の数が減ったり、さまざまな問題行動が減ったりすることが効果として

期待されています。それ以外にも、非常に楽しく学校に通えているとか、中学生になると自分に対する自信とか意欲がなくなる子が多いのですが、それが自信を持ち意欲を持って学校に通えとか、そうしたことができるのではないかというのが②になります。

③は、先日の運動会でもいろいろなところで見られたのですが、幅広い異年齢集団による活動ということで、例えば大泉桜学園では児童・生徒会で5年生からみんな係活動を一緒にやっています。そうすると5年生は中学3年生の先輩を見ていろいろ学ぶとか、あるいは1年生、4年生でもいろいろ交流があるとか、いろいろな学年の異年齢集団による活動を通じて人間性、社会性を豊かにしていくようなことができるのではないかというのが③です。

④は、小学校の先生方と中学校の先生方の相互協力関係ということです。学校が離れていまずと、どうしても小学校は小学校の先生、中学校は中学校の先生と分かれているのですが、こうして一緒になると小学校の先生と中学校の先生がいろいろなところで協力できるようになります。校務分掌ですとか、あるいは授業の中でもいろいろ協力関係ができます。算数と数学は同じようでも随分違っていて、なかなか段差が大きいのですが、小学校の算数ではこういうことを教えていて、それを引き継いで中学校でこういうことを教えましょうと、そういう連携ができるというのが④です。

⑤は、地域社会と連携した特色ある学校づくりの推進ということで、小学校から9年間、大泉桜学園に子どもたちが通いますので、兄弟が同じ学校に通うことが多くなるわけです。そうすると保護者の皆様が1つの学校にずっとかかわってくださるとか、地域の方もより一体になった学校に対していろいろ支援してくださるとか、そうしたことができるのではないかというのが⑤になります。

こうした①から⑤のような期待された効果の一つひとつ検証していこうというのが、この部会の基本的な趣旨になりますので、補足して説明させていただきました。

ご質問があればお願いします。いかがですか。

委員

中学校に行くとき専科の先生になりますね。大泉桜学園でも6年生までは1人の担任が教えて、7年生になると専科になるのでしょうか。

部会長

大泉桜学園では、小学校5年生、6年生では専科はどのくらい入っていますか。

委員

本校では一部教科担任制という言い方をして、5・6年生から中学校に準じた形で教科担任制を拡大してやっています。

具体的には、国語は担任が教えています。しかし、社会と理科を中心に、担任が相談してどっちを持つかを決めたりしています。算数は少人数指導として、2クラスを4つのグループに分けていますので、担任に教わる子もいますが、隣のクラスの担任に教わる子もいますし、特別に加配されている算数の先生に教わることもあるしという形で、少グループ集団で学習しています。というふうに分けていくと、算数と理科と社会と、どこの学校でも行っている図工や音楽なども併せて、事実上の教科担任制が7割ぐらいになってきます。

委員

理科、社会はクラスまとめてやるということですか。

委員

そうです。

本校は理科については、加配を申請することによってもう1人講師の先生を特別に配置してもらっています。ですから研究チームで理科の実験の授業が可能です

委員

7年生になると一気に全部専科になるのですね。

委員

そうです。

部会長

理科の加配の先生は、ほかの学校でも入っているところがあります。算数の少人数指導も、学校によっては配置されているところがあるかと思います。今は昔と比べそういう形で教科ごとに指導の体制が専科のようになっているところはかなり増えてきています。

委員

大泉桜学園は小中一貫ですね。小中連携の学年の分け方を4・3・2と考えても、(桜学園以外は)敷地が離れています。その場合はどうなるのですか。

部会長

この部会が検討するのは小中一貫教育校の大泉桜学園のことについてだけですが、区全体としては、離れていながらも小中連携をしようとしている学校がありますね。

事務局

施設一体型は大泉桜学園1校のみです。ほかの小学校、中学校についてはグルーピングをして、それぞれのグループで研究活動として小中一貫教育に取り組んでいただくこととなります。そうなりますと、小学校6年と中学校3年という組み合わせになります。

練馬区の考える小中一貫教育のベースには、大泉桜学園と同じように4年・3年・2年という子どもの発達段階を踏まえた取組を考えていきたいということはありませんが、現実的には離れていると、やはりなかなか厳しいところがあります。それをどのように進めていけるかということ各校に研究していただいている状況です。

部会長

ほかにいかがですか。

何かお気づきの点やご質問があればまた後でも結構ですのでご質問ください。

(3) 小中一貫教育校大泉桜学園の概要

部会長

大泉桜学園の概要について、事務局から説明をお願いします。

事務局

(説明)

部会長

最初に説明がありましたように、大泉桜学園は、法規上は小学校と中学校です。この間、新聞に出ましたが、これを法規上も小中一貫教育校という単一の学校にしようという動きがあります。小中で1つの学校として運営できるようにするという事です。そうすると恐らく、教員の配置の手続なども変わってくるのではないかと思います。まだ国会に法案が出ているわけではありませんが、もう出ようとしているところです。

学校要覧の2ページの上のほうにパイプ状のものがあって、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期と書かれています。学級担任制のところは黄色く「一部教科担任制」というのがあるのですが、これが先ほどのことです。これを見ていただくと、大泉桜学園では4・3・2という分け方になっていますが、基本的にはそれで指導を早めてほかの学校よりも非常に速くたくさんの方の事を学ぶという姿勢ではなく、公立学校ですので、学習指導要領に準拠した指導になります。その部分はほかの学校と変わりなく、転居して学校を移動する場合にもスムーズに入っていけるように、配慮して進めているということです。

資料の中身、あるいは資料を離れても結構ですが、この大泉桜学園のことで何かご質問があればお願いします。

委員

長男が高校受験のときに（法規上は大泉学園桜中学校と書くところを）誤って大泉桜学園と書いてしまいました。息子には、受験のときに「絶対学校名だけは間違えちゃダメよ」と言うて出掛けさせたのを思い出しました。

高校に入学して「大泉桜学園です」と言ってもその当時はあまり知られていませんでした。「私たちの大泉桜学園は小中一貫校なんです。」と言ってアピールをしても、受験した都立高校でも私立高校でもあまり認知度がなかったということ、非常に強く思い出しています。大泉桜学園のPTA会長として、もっと学校をアピールしたいと思いました。

学校の中身が実際はあまり知られていないところが結構あり、先日のようにテレビに映ったりすると、保護者からも「あ、結構有名なんだね。」なんていう話をいただく感じです。

大泉桜学園と言ったほうがいいのか、中学校・小学校として、それぞれの役割を認識した上で大泉桜学園ということと特徴があるのだと言ったほうがいいのか、名前の説明にちょっと困るときがあります。

今はもちろん校長先生とタグを組みながらアピールしていますので、そこはだいぶ解決されていると思いますが、2年前ぐらいはまだそういうこともあって、少し困ったり、あるいは失敗したり、ボールペンで書いてしまって真っ黒にして書き直したりなんていうケースがありましたので、ご報告をさせていただきました。

部会長

確かにお間違いになることがあると思います。高校進学するときには大泉学園桜中学校と書かなければいけないわけですね。そういうことがありますので、実質に合わせて小中一貫の学校を正規の学校として認めるということを国としても考えているところです。

委員

6年生で1度卒業すると聞いたのですが、例えばそこで、6年生から中学受験するケースはありませんか。

委員

それはあります。

委員

その段階ではほかの学校と同じ課程ですよ。

部会長

ほかの学校と同じく学習指導要領に準拠して、小学校6年の課程を終えた子として卒業し、受験します。

教育企画課長

ほかの区や自治体によっては特別なカリキュラムを組んでいる場合もあります。例えば前後の年の学習内容を入れ替えたり、ふるさと科とかいうような科目を特別な科目として設けたりしている自治体もあります。練馬区では、多くの学校において小・中学校の学区域が複雑に重なり合っているところが多いので、私立受験、都立受験、あるいは練馬区のほかの中学校の選択ということを考えると、特別なカリキュラム編成をしているとなかなか対応がつかない場合が多いということで、教育委員会としては特別なカリキュラム編成はせずに学習指導要領に沿ってやっていくということをお願いしています。校長先生としてはもう少しこんな工夫も、あんな工夫もという部分があるとは思いますが、そういった中で一貫教育校についてもカリキュラムをつくって活動していただいている状況です。

委員

ちょっと補足させていただきます。学習指導要領に準拠するのが練馬区の基本方針ということですが、カリキュラムの内容を小中一貫校にふさわしく特色ある教育活動にするということとは別です。つまり学習指導要領では、例えば道徳の時間は週1時間で年間35時間と決まっています。ところが、いわゆる小中一貫教育を先進的に進めているところは、そういう時間数も取り払って独自の形で、特別活動とか、あるいは道徳とか、総合的な学習の時間とかの要素を合体させてやっているのですが、本校では、時間数についても学習指導要領に準拠して、大泉学園緑小とか大泉学園小と同じ時間数をきちっと確保しながらやっています。

ただし、中身についてはすべての学校が同じということではないわけで、本校ならではの特色をいかに出すかということで努力、工夫していますし、またそういうところをぜひ成果と課

題として評価していただきたいと思っています。

委員

受験するお子さんはいました。大泉学園中にも、中学校の選択制を活用して大泉学園桜小、大泉桜学園から来ている子がいましたので、受験じゃなくてもそういうことはあります。

部会長

ほかにいかがでしょうか。

それでは、次の案件に移らせていただきます。

(4) 練馬区小中一貫教育校大泉桜学園検証計画

部会長

4番、練馬区小中一貫教育校大泉桜学園検証計画に移らせていただきます。最初に事務局から説明をお願いします。

事務局

(説明)

部会長

3ページ目の3の「基本方針」というところをもう一度ごらんいただきたいと思います。「大泉桜学園の検証を行うに当たっては」というところですが、ここが一番考えてきたところです。学校の教育効果は何かということなのです。全国学力テストをやり始めてからこの学力テストの点数だけがひとり歩きしがちですが、ちょっと違うのではないかと考えています。学校というのは、もちろん学力もありますが、文科省は「生きる力」というのを言っているのですが、そこには学力だけではなくて、健やかな体と豊かな心があります。これを総合して育てるのが学校だということになっていて、子どもたちの広い意味でいう人格形成を支えていく、それが学校の役割です。特に公立の学校教育の一番大きな役割です。

この間、運動会がありましたが、子どもがすごく生き生きと活動していました。その後、授業参観をしたときには、低学年の子どもたちが運動会の感想作文をいっぱい書いていました。1年生の子どもさんは大玉送りにすごく感激したみたいで、大玉送りの絵をいっぱい描いていました。学力調査など数値の出たものだけではなくて、これが1つの教育効果であろうと思います。そうした多面的な学校の教育をしっかりと検証できる体制でいきたいというのが、この部会の基本的な趣旨になります。ですから、学校のさまざまな指導の努力の過程や子どもたちの成長の様子などを幅広く検証していくということでいろいろ挙げていきたいと考えています。

順次いろいろ出てきますので、そのときにまたご意見いただければと思っています。原則はそういうことで考えていますのでよろしくをお願いします。

何か、ここまでで質問等ありましたらお願いします。

委員

運動会や学習発表会は、学年が多くなった分、種目が増えると思うのですが、時間設定はど

うされているのですか。

委員

小学校の運動会だと表現活動を重視した発表となりますが、学年ごとにやれば6種目をやることとなります。そうすると本校では、膨大な時間がかかってしまいますので、1・2年生、3・4年生、5・6年生という組合せで発表し、プログラムの圧縮を図る工夫をしています。

委員

学習発表会も同じですか。

委員

本校では、学習発表会、学芸会に代わるものとして、音楽を中心とした桜祭という音楽会を和光のサンアゼリアの大ホールを借りてやっています。そこでは1年生から9年生までが学年ごとに発表をしています。少し話がそれてしまいますが、学芸会で目指すものと音楽発表形式で目指すものでは根本的に異なります。それがこの小中一貫教育校の特色をどう出していくかということなのです。サンアゼリアの大ホールはプロのプレイヤーも発表するすばらしい音響効果のあるステージですので、そこで発表するということは、子どもたちも本当に足が震えるぐらい緊張することなのですが、ステージに立ってみると音の響きがすごくよくて、ハーモニーの美しさがよくわかります。それを上級生も下級生も一緒に発表し合って、大人が見ているという緊張感とクオリティの高い音楽を経験させるということで一つの発表形式になると考え、そういう形態をとっています。

部会長

運動会は昨年参加させていただきました。3・4年生と一緒に表現のパフォーマンスをしていました。それだけ人数が増えると、グラウンドいっぱいを使っての演技ができるわけです。お互いに協力し合って練習してきたのだと思いますが、非常に子どもたちは頑張っていました。

委員

運動会の話に戻りますが、例えば、運動会の華と言っていいリレーなども、本校の場合は、1年生から9年生まで学年別にやると9回になってしまいます。本校では1期、2期、3期という成長・発達の期別を踏まえて、日ごろから期別に朝礼を行ったり、4年生が1年生から4年生までをまとめたりという形でリーダー性を養成していますが、運動会でも期別リレーというものを取り入れています。つまり1年生から4年生までが順次リレーし、4年生がアンカーになるようにしています。同じように5・6・7年生のリレー、8・9年生のリレーとなっています。そうするとリレー種目を絞り込んでいくことができます。運動会はどうしても低学年のお子さんに合わせて、健康面の安全性もきちんと担保しなければいけません。時間が延びるようなことはできないので、特に時間との勝負という課題が本校ではあります。その点ではそういう工夫をしていますが、それについては保護者の方にも、当然賛否両論あります。ただ、本校で目指している運動会は、期別でやるとか、1年生から9年生までの子どもたちの一体感をどのようにつくっていくかということを中心にしていきますので、そういう方法を取り入れてご理解いただいています。

委員

とても一体感があって、あまり不満もなく、1年生から2年生のかわいい部分を見られたり、3年生から5年生を含めた期別の動きが見られて、桜学園らしさが出た運動会になっていると私たち保護者は理解しています。

また、裏方として、いろいろと上級生が活動しています。例えば道具の片づけをしたり、応援団をやっていたり、今回は非常に暑い日でしたが上級生が1～2年生を引き連れてトイレに行かせたり、あるいは日陰に避難させたり、そういう役割をやっていました。家族的でとてもいい雰囲気は保護者みんなでほのぼのと見ていました。

今回の調査で、場合によっては保護者の方へのグループインタビューのようなものも取り入れられると、アンケートの行間には入らない何か新しい意見などが聞けて、さらに今回の調査結果にいいものが見えてくるのかなという感じがします。

部会長

ありがとうございます。グループインタビューについては検討します。
ほかに何かいかがでしょうか。
では、次に行きたいと思います。

(5) 平成26年度における小中一貫教育校検証部会予定について

部会長

次は5番、平成26年度における小中一貫教育校検証部会予定についてです。既に案件(4)で出ていますが、本部会の今後の予定を確認するという事で事務局から説明をお願いします。

事務局

(説明)

部会長

ここにありますように、最終的には来年度の2月まで続きますのでよろしくをお願いします。

(6) 大泉桜学園の検証項目および資料に関する検討資料(ヒアリング対象と内容)

部会長

案件6、本部会が取り組む具体的な協議に移ります。大泉桜学園の検証項目および資料に関する検証資料についてですが、アンケートのことについてご議論をいただきたいと思います。事務局から説明をお願いします。

事務局

(説明)

部会長

少し多面的に学校の評価をしようとする、いろいろなデータが必要になってきて、アンケートもやっておいたほうがいいのではないかと、事務局から説明があった幾つかの項目のアンケートやヒアリングを考えています。ヒアリングについては、学校の調査でこれだけいろいろな立場の方から話を聞くにはかなり時間がかかります。そのため一般的にはあまりやらないのですが、こういうことをやらないとわからないのではないかと、計画に入れております。

部会長

アンケートをしたりヒアリングをしたりということを企画しておりますが、非常に膨大な量ですので一度見ていただいただけでは、なかなかわかりにくいかもしれません。そこで、また何かありましたら事務局のほうにご連絡いただければと思います。

このアンケートやヒアリングについて何かご質問があれば、対応できる場所はしたいと思います。先ほどの保護者のグループインタビューは早速検討したいと思います。

委員

もしグループインタビューの本格的な検討ということを考えるのであれば、中1から入学して来た生徒など、カテゴリー別に何人かインタビューするのも、いろいろ言われていることの分析ができるのかなと思います。

1年生の保護者の皆様には運動会の行事は体験いただいているものの、本当の意味でこれから楽しめる桜祭などは、まだ体験いただけていない中でのアンケートになるので、若干偏った意見が出る可能性があるかなということでも少し心配しています。

部会長

確かに一通り体験してみないとわからないこともいっぱいあると思います。時期については少し検討してみたいと思います。

ほかに何かございますか。

委員

大泉学園緑小の卒業生について、可能であれば、入学前の気持ちと、現在の気持ちの両方を聞き取ってもらえると、何かがわかるのではないかなと思います。

部会長

アンケートはできる限り、他の学校から大泉桜学園に7年生で入ってきた子どもたちと、下から上がってきた子どもたちの意識を分けて比較しようと考えたのですが、入学前の気持ちと入ってから気持ちを個別に細かく聞く形にはなっていません。

委員

全員じゃなくてもいいと思いますが、検討していただければと思います。

部会長

何人かの子どもたちに、特にその部分を詳しく聞くようなことになるでしょうか。ヒアリン

グの候補としては、児童・生徒については児童・生徒会の役員ですが。

委員

役員に入っている子も多分いるとは思いますが。

部会長

では、少し注意して、そういう子たちには、この学校に来てどうだったかというのを聞くようにしたいと思います。

ほかにはいかがですか。

委員

子どもとしては、この黄色い冊子に基本方針として示されていますから、これに基づいて学校をいかにつくるかということにずっと努力をしてきました。説明にもありましたが、5ページに「小中一貫教育校設置の効果」とあるので、こういう効果があるのかどうかということよりは、こういう効果を生み出さなければいけないということにずっと努力してきたわけです。「開校に向けて」にも、効果については抜粋でピックアップしてあります。さらに資料の8の検証計画の中に、基本方針として、小中一貫教育校設置の効果で①から⑥までをピックアップしています。改めて、この効果があったかどうかということに目を向けなければいけないと思ってお話を聞いていたところです。

この場でちょっと申し上げておきたいのは、基本方針というのは例えば、給食で月に何回肉料理を出してください、魚料理を出してください、米飯給食もやってくださいということを決めておくことで、その米飯給食を五穀米にしようとか、味つけや献立をどうしようかと考えるのは子ども現場の匙加減になります。校長の経営計画で、味つけの方針が示されるということを理解していただきたいと思います。

例えば、よく言われることですが、②「小学校から中学校へ進学する際の段差（学習内容や指導方法の違い）を緩やかなものにし、円滑な移行を図ることにより安定した学校生活を送ることができます。その結果、不登校や問題行動を減少することができます」という表現がありますが、この「緩やか」とか「段差」という言葉の考え方について、本校では教師や親が露払いになっているいろいろな段差を平らにしてあげたり道を舗装してあげたりして、つまづかないように歩かせるという考え方では必ずしもありません。むしろ段差は段差で、どうぞつまづいてください、転んでください、そのかわり失敗しても許されるのですよという方針でやらせてもっています。

ですから、つまづきやすい部分を除去して歩きやすくしたり、段差をなくしたりという考え方は全くありません。むしろ、ある程度の負荷を子どもたちにかけることによって、その負荷を乗り越えることで力をつけていくようにという考え方です。一番典型的なのは4年生で、東校舎の最高学年としてリーダーシップが発揮できるように、いわゆる特色ある教育活動をベースにして取り組んでいます。その結果、5年生や6年生の行っているような委員会活動も4年生でこなすことができるようになっていきます。だから4年生というのはすごいんだという自覚を持たせ、その誇りと自信を土台にして5年生、6年生になると西校舎で勉強させています。5年生、6年生では、そういうリーダー経験をしてきた子たちが、中学生と同じ時間帯の中で50分授業を受けます。そして児童・生徒会活動では、役員になりたかったら何百人もの先輩た

ちの前で立候補できることや、選挙できちっと投票することなど、権利と義務を経験させます。それから部活動も一緒に体験させます。そういう形でとにかく力をつけさせたいという考え方です。

そして、7年生には防災リーダーという形で、この地域の担い手となってくれるような力を養っていくという考え方です。この「緩やか」というのは、段差をなくしてあげて滑らかに接続させるというよりは、段差をたくさん用意して、その代りに気がついたら楽に越えられていた、そういう力をつけさせることが、実は大事なのではないかという考えに至って、今日まで取り組んでいます。

一部には6年生が最高学年としてのリーダーになれないねという反応はありますが、9年間のスパンで考えたときには、4年生、7年生、9年生と、最低でも3回リーダーの経験ができるということなのです。ですから、その辺で緩やかとはどういうことなのか検証していただきたいという気持ちがあります。

それから、⑤で「地域社会と連携した特色ある学校づくり」とあります。小中一貫教育校が開校する前に、地域との連携はどうしていったらいいのだろうということで、いち早く吹奏学部を創部して、いろいろなところへお招きいただけるよう、学校をアピールするメッセージボーイ、メッセージャーガールのような存在を育成したり、児童・生徒が福祉施設等に行ってボランティア活動に参加させていただいたりということに取り組んでいます。一方で、お客さんがたくさん来る学校ということを考えて、いわゆるふれあい給食のような形で地域のご高齢の方たちにたくさん来ていただき、クラスごとに昔遊びをした後、給食を食べていただく、そういう交流も年間10数回やっています。実際に交流して、その結果、これらの活動が子どもたちの成長にどういう影響を及ぼしているかというところを評価してほしいと思います。

やっているか、やっていないか、というより、やったことによって、例えばふれあい給食を通して子どもが優しくなれているのか、なれていないのか、思いやりを持てる子になれているのか、なれていないのか、そこら辺を意識調査で把握してもらいたいと思います。

先ほどの運動会の様子もそういう視点でご指摘いただいたのでうれしく思っていますが、毎年やっても、毎年やはり改善の余地があるのです。あれで完成形とは思ってなくて、やってみるといろいろな反省点が出てきます。初めに子どもありきで、子どもがどのように成長しているかというところは、今申し上げたようなところがありますので、ぜひご理解を賜りたいなと思っています。

部会長

特色ある学校づくりの教育効果は何かということだと思います。今おっしゃったような、大泉桜学園の考え方に則して指導して行って、学習の意欲だとか、学校に楽しく通えるだとかにつながっていけるかどうか、そうしたことを1年かけて検証していくことにしていきたいと思います。

本日の案件は以上で終了しました。

以上をもちまして、練馬区小中一貫教育推進会議第5回小中一貫教育校検証部会を終了します。

(閉 会)